



仁川合流点に作ったウナギの寝床。2016/1/17



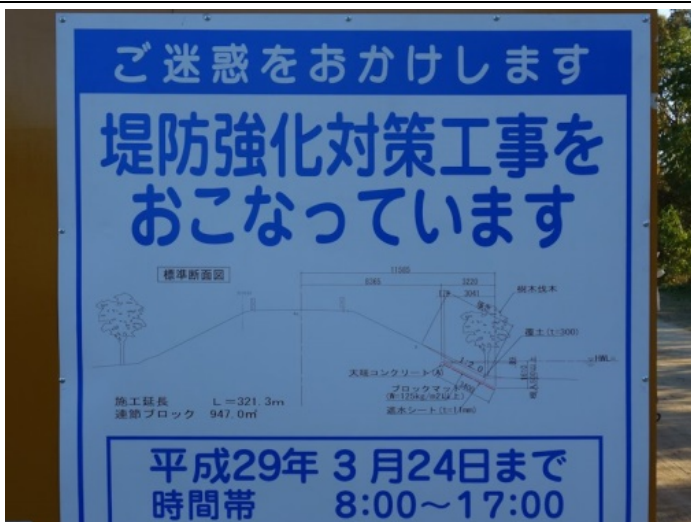
ウナギの寝床近くで見つけた体長 60 cmのウナギの死骸



小松東工区で切り倒された二本松 2016/11/18



小曽根工区で残った松 2016/11/18



南武庫之荘工区の看板



法面の木が切り倒されコンクリートマット工事始まる。

10月29日「武庫川づくり交流会」で仁川合流点にウナギの寝床を作った。ウナギが寝てくれるか半信半疑だった、その後の様子を見に行き行って偶然腸をえぐられた 60 cmのウナギの死骸が見つかり、ウナギ棲息の確証が得られた。

11月に入り改修工事が本格化した。小松工区では川沿いの松の木二本切り倒された。作業員は松の木も生きもので切り倒すのは心苦しいところはあるが、御神酒をあげて慰めて作業に掛かったという。写真から年輪を数えると一本は 60 年、もう一本は 66 年だった。大した問題ではないが、お知らせには拡幅工事とあるが、どう見ても、塩水浸透対策の矢板工事のようである。小曽根工区は法面のブロックマット工事が行われ、工事のお知らせ通りの堤防強化対策工事が行われていた。この区間の堤防の法面にあった、大きなエノキや栴檀が切り倒され殺風景になった。エノキも栴檀も、松に比べ成長速度が相当早く、十数年も経ったら元の風景に戻るのだろうが、木の大きさに比べ根株は小さく、成長して大きくなったら台風で根から倒れ堤防を壊す心配があり木が育つのも善し悪しで管理は欠かせない。